

学位授与番号：乙3072号

氏名：榮 兼作

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成25年11月27日

学位論文名：

L-カルノシンおよびその亜鉛錯体ポラプレジンクの褥瘡における効果

主論文名：

Effects of L-carnosine and its zinc complex(polaprezinc) on pressure ulcer healing.

（L-カルノシンおよびその亜鉛錯体ポラプレジンクの褥瘡における効果）

学位審査委員長：中川秀己教授

学位審査委員：靱山俊彦教授、内田満教授

# 論文要旨

論文提出者名	榮 兼作	指導教授名	柳澤 裕之
<p data-bbox="236 450 480 488">主論文題名</p> <p data-bbox="236 551 1318 589">Effects of L-carnosine and its zinc complex (polaprezinc) on pressure ulcer healing.</p> <p data-bbox="256 595 1281 633">(L-カルノシンおよびその亜鉛錯体ポラプレジンクの褥瘡における効果)</p> <p data-bbox="236 640 895 678">ジャーナル名 : Nutrition in Clinical Practice</p> <p data-bbox="220 786 1410 913">背景と目的 : L-カルノシン (CAR) は内因性のジペプチドである。本研究の目的は、CAR とその亜鉛錯体ポラプレジンク (PLZ) の褥瘡治癒に対する効果を、長期間入院もしくは施設入所している患者を対象に検証することであった。</p> <p data-bbox="220 927 1410 1200">方法 : 本研究は最大 4 週間の追跡期間による非無作為化比較対照試験であった。ステージ II から IV の褥瘡を 4 週間以上有する 42 名の患者が、募集された順番に 3 群のうちの一つに割り付けられた。対照群 (n = 14) は服薬しなかった。PLZ 群 (n = 10) は経口的に PLZ を一日 150 mg (CAR 116 mg と亜鉛 34 mg を含有) 服用した。CAR 群 (n = 18) は経口的に CAR を一日 116 mg 服用した。褥瘡の重症度は、週に一回 the Pressure Ulcer Scale for Healing (PUSH) スコアを使って評価した。</p> <p data-bbox="220 1214 1410 1487">結果 : ベースラインにおいて、人口統計上および栄養上の因子、褥瘡のリスクレベル、褥瘡の特徴 (重症度、サイズ、ステージ) のいずれにおいても群間における有意差はなかった。4 週間後、PUSH スコアにおける週平均の改善量によって評価した褥瘡の治癒速度は、CAR 群 (<math>1.6 \pm 0.2</math>, <math>P = 0.02</math>) と PLZ 群 (<math>1.8 \pm 0.2</math>, <math>P = 0.009</math>) では対照群 (<math>0.8 \pm 0.2</math>) と比較して有意に大きかった。CAR 群と PLZ 群の違いは有意ではなかった (<math>P = 0.73</math>)。研究期間中の実際の食事摂取量は、群間で有意な差はなかった。</p> <p data-bbox="220 1500 1270 1538">結論 : CAR と PLZ は 4 週間で褥瘡の治癒をほぼ同等に促進することが示唆された。</p>			

## 論文審査の結果の要旨

環境保健医学講座の榮 兼作氏の提出論文は主論文 1 編、副論文 1 編よりなり、主論文の表題は「Effects of L-carnosine and its zinc complex (polaprezinc) on pressure ulcer healing」と題するものである。指導教官は環境保健医学講座の柳澤 裕之である。

論文審査は平成 25 年 11 月 6 日(水)午後 5 時より審査委員として薬理学講座の靱山 俊彦教授、形成外科学講座の内田 満教授並びに指導教官の環境保健医学講座の柳澤裕之教授の御臨席のもと、プレゼンテーション内容に基づき公開審査を開催しました。席上

- 1：亜鉛単独の群を入れなかった理由および亜鉛摂取の一日最大量は
- 2：褥瘡の大きさを限定した理由は
- 3：病理組織学的な検討は行っているか
- 4：デブリドメントの方法と回数は
- 5：褥瘡の部位により治癒の経過に差があるか
- 6：試験終了後の 3 群の褥瘡治癒に差があったか
- 7：無作為化プラセボ対照比較試験が必要であるとしているが、具体的にはどのような試験計画を考えているのか

などの質問が出ましたが、榮氏は今回の詳細な解析並びに臨床経験から適切にわかりやすく回答致しました。

その後、靱山教授、内田教授と慎重に審議した結果、本論文は学位論文にふさわしいものと判断いたしました。